

3. 教員の国際的な活動

1) 協定校との交流活動

(1) ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学

令和6年度イタリア短期研修は、2024年9月16日～9月24日（9日間）に実施され、昨年に引き続き木下教授が引率した。学生の研修、体験を支援するとともに、今後の交流に関して、カ・フォスカリ大学側担当者と具体的協議を行った。

コロナ禍および担当者の逝去による長期中断の後、再開後の短期交流は大変うまく行っており、今後も継続する方針を双方が確認した。一方で、イタリア側学生の本学への研修参加者の確保が課題となっている。カ・フォスカリ大学へは、日本からも多数の有名大学が交換留学協定を締結しており、イタリア人学生にとっては研修先選びに苦労しない状態である。国立大学であるカ・フォスカリ大学として、特定の大学の研修を薦めることは難しい。そこで、①本学との間で交換留学の協定を締結する。これにより、授業料免除、学生寮の利用、学生支援サービスの特典により、競争力を確保する。②学生募集スケジュールを見直す。現在学生募集は秋に行い、春に来日するスケジュールであるが、学生募集を他大学の交換留学選考終了後の1月から実施し、秋学期に渡航するように変更することで、他大学の選考にもれた学生の受入れにより、学生を確保する。二点を検討することになった。

(2) ガジャマダ大学との活動

インドネシア・ガジャマダ大学医学/公衆衛生学/看護学部教授 Ariani Arista Putri Pertiwi 先生による特別講義「Nursing Informatics」を令和6年10月30日に開催した。教員10名、大学院生3名が参加した。

また、令和6年10月10日に、Ariani 先生も参加された西ジャワ州インドネシア看護管理者協会主催の国際セミナー「看護実践における遠隔医療：コストとケアの質」において、「在宅領域でのテレナーシング」についてのゲストスピーカーとして川上准教授がオンラインで参加した。

2) 民間団体との連携

(1) 国際 NGO ピースウィンズジャパン

特定非営利活動法人ピースウィンズジャパン(PWJ) は、本学と災害時連携協定を締結しているが、看護学部教員は災害時以外に、この NGO の実施する国際人道支援活動に関して技術的協力を継続している。今年度は、同団体が受託した令和6年度日本 NGO 連携無償資金協力事業「ミャンマー避難民に対する救援事業（タイ・カンチャナブリ県サンクラブリ郡におけるミャンマー避難民を含む脆弱な母子支援ボランティアの育成事業）」に、木下真里教授が保健医療専門家として8月に派遣され、現地 NGO に対して専門的助言を行った。

(2) 共同研究

上述2024年8月のPWJ委託業務での渡航をきっかけに、現地医療機関および保健医療分野の支援団体との連携がはじまり、同年末ごろからタイ・ミャンマー国境地域での母子保健サービスに関する共同研究をスタートした。まずは、移民や避難民の妊婦健診(Antenatal Care, ANC)受診状況のデータを収集し、どのようなサービスを受けているのかを調査することから開始している。2021年のミャンマー軍事クーデターや、コロナ禍、2025年3月28日に発生した大地震の影響や、米国の海外援助政策方針の変更(USAIDの解体による事業終了)に伴う財政難が、現地の母子の健康状態に影響を及ぼす可能性を検討する。

次年度も継続予定であるが、今後は調査結果を踏まえた支援にまで活動を拡大するため、正式な母子保健支援事業として公的機関への応募を検討中である。

(3) 学会活動

① 日本災害医学会国際委員会

前年度より引き続き、木下真里教授が日本災害医学会の国際委員として、主に世界災害緊急医療学会 WADDEM2025・Tokyo の開催企画、演題 20 編の査読、災害看護系国際学会との連携を担当した。創刊にあたっては、査読委員となり、学会演題編、投稿論文 1 編の査読を担当した。2024 年 WSDN（世界災害看護学会）が神戸で開催されるにあたっては、木下教授が JADM-WSDN 連携ワーキング・グループのリーダーとして協力の調整にあたった。

② 世界災害看護学会 WSDN

11 月に神戸で開催された表題学会には、木下教授が単独座長として登壇した。また DNGL として 5 大学共著演題を発表した

(4) WHO 協会機関誌への寄稿

日本 WHO 協会「目で見える WHO No.91 2025 冬号」に、本学看護学部を中心としたグローバル教育についての取組みについて寄稿した。